

第 2 学年 算数科学習指導案

1 単元「かけ算（２）」

2 指導観

- 本単元は、乗法の意味理解を深め、前単元で身に付けた乗法の性質を活用しながら、6の段から9の段および1の段の九九を、児童自らが構成し、具体的な場面で活用できるようにすることを主なねらいとしている。

具体的には、①「かけ算（１）」での既習を活用して、6、7、8、9、1の段の九九を構成すること、②九九表を用いたり、既習を活用したりして「交換法則」や「分配法則」などを見つけ出すこと、③前単元で学習した「1つ分の数」×「いくつぶん」＝「ぜんぶの数」という乘法に基づき「何倍」という表現のしかたや「倍」の意味を理解することである。

本単元の学習は、既習の乘法について成り立つ性質をもとにして、未習の九九についても児童自らが構成の仕方を考え、乗法の意味理解を深めていくものである。さらに、既習の乗法の性質を活用して問題解決を行ったり、解決の過程で新たな性質を発見したりすることにつながっていく。このことは、数学的な考え方を伸ばす上で意義深い内容である。

- 本学年の児童は、これまでに「かけ算（１）」において、乗法の意味や乗法の用いられる場合について具体的な場面を通して学習してきている。また、累加による乗法の答えの求め方を理解するとともに2から5の段の乘法九九を構成し、それを通して「乗数が1増えると、積は被乗数だけ増える」という乗法の性質を見だし活用してきている。

算数科学習の学び方については、かけ算の学習を楽しみにして意欲的に九九を構成したり、暗唱したりする姿が多く見られる。しかし、図や式、言葉などを使って、自らの考えを筋道立てて相手に分かりやすく表現する力や自分の考えと友達の考えの共通点や相違点に気をつけながら聞いたりする力は、十分とはいえない。

- 本単元の指導にあたっては、前単元「かけ算（１）」での学習をもとに、児童自らが6、7、8、9、1の段の乗法の構成の仕方を意欲的に追究し、乗法の意味理解を深めることができるようにする。また、学習したことを活用し、次学年へつなぐこともねらう。そのために、各型の学習において、次のような算数的活動を工夫する。

「習得型」学習では、既習内容と未習内容を整理し、乗法（6、7、8、9、1の段）について学習するという単元のめあてをもたせる。ここでは、「今までの学習を連続・発展させていく」という意識付けをし、本単元の学習への見通しと意欲をもてるようにする。また、既習の乗法の性質を用いたり、交換法則や分配法則を発見したりしながら、児童が自力で九九を構成できるような活動を仕組む。その際、アレイ図を活用しながら、図、言葉、式を用いて自分の考えをつくる活動を繰り返し行っていく。さらに、自分が考えた九九の構成の仕方を全体で交流することによって、乗法の性質やきまり、構成の仕方についての理解を一層深めさせていきたい。

「活用型」学習では、九九を総合的に活用し、工夫して問題解決する活動を取り入れる。また、生活の中から問題をつくることを通して九九の理解を深め、進んで用いようとする態度を育てる。

「スパイラル」学習では、12程度までの2位数と1位数との乗法の求め方について考える活動を取り入れる。第3学年における2位数や3位数などの乗法の計算のしかたを考える上での素地的経験をすることで、乗法の構成について理解を深めていきたい。

3 単元目標

- 乗法について成り立つ性質を用いて九九を構成しようとする。（関心・意欲・態度）
- 乗法について成り立つ性質を用いて、乗法九九の構成のしかたについて多様に考える。（数学的な考え方）
- 乗法九九（6、7、8、9、1の段）を構成し、確実に唱えることができる。（表現・処理）
- 乗法九九について成り立つ性質や乗法のきまりを理解する。（知識・理解）

4 指導計画（全19時間）

時	型	学習内容と問題	主な算数的活動と手立て
1 2	プロ ロー グ	<p>○ 既習と未習を整理して本単元の学習に関心を持ち、学習課題と学習計画をつくる。</p> <p>問題</p> <p>「かけ算（2）」で、どんなことを学習するのか考えよう。</p>	<p>○ 既習と未習を整理して本単元の学習に関心を持ち、学習課題と学習計画をつくる算数的活動</p> <p>※ 5・2・3・4の段の求め方を想起させる。</p> <p>①同数累加 ②1つ前の積に被乗数をたす ③交換法則</p>
3 4	習 得	<p>○ 乗法について成り立つ性質を用いて、6の段の九九の構成の仕方を考える。</p> <p>問題</p> <p>6こずつ入ったチーズが□こあります。 チーズはぜんぶで何こありますか。</p> <p>○ 6の段を記憶し、練習問題を解いて適用を図る。</p>	<p>○ 累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則を活用して、6の段の九九を構成する算数的活動</p> <p>※ 数量と数式を結びつけて考えることができるように、アレイ図を活用する。</p> <p>○ 6の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習し、適用問題を解決する。</p>
4 5	習 得 2 組 本 時	<p>○ 乗法について成り立つ性質を用いて、7の段の九九の構成の仕方を考える。</p> <p>問題</p> <p>1れつに7こずつ入ったおかしが□れつあります。 おかしはぜんぶで何こありますか。</p> <p>○ 7の段を記憶し、練習問題を解いて適用を図る。</p>	<p>○ 累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則を活用して、7の段の九九を構成する算数的活動</p> <p>※ 数量と数式を結びつけて考えることができるように、アレイ図を活用する。</p> <p>○ 7の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習し、適用問題を解決する。</p>
6 7 8 9 10	習 得	<p>○ 乗法について成り立つ性質を用いて、8の段・9の段・1の段の九九の構成の仕方を考える。</p> <p>問題</p> <p>8のだん・9のだん・1のだんの九九をくふうしてつくろう</p> <p>○ 8の段・9の段・1の段を記憶し、練習問題を解いて適用を図る。</p>	<p>○ 累加や積と乗数の関係に加え、交換法則や分配法則を活用して、8の段・9の段の九九を構成する算数的活動</p> <p>※ 数量と数式を結びつけて考えることができるように、アレイ図を活用する。</p> <p>○ 8の段・9の段・1の段の九九を唱えたり、カードを用いたりして練習し、適用問題を解決する。</p>

時	型	学習内容と問題	主な算数的活動と手立て
11	習得	<p>○ 「倍」の意味について理解する。</p> <p>問題</p> <p>□のテープの長さをもとにして、2つぶん長さに色をぬりましょう。</p>	<p>○ 「倍」を用いた表し方を知る算数的活動</p> <p>※ テープ図を使った操作活動→テープ図での図的表現→～の□倍の式化の順に交流活動を行う。</p>
12	習得	<p>○ ある量の何倍かを求めるときに、かけ算を用いることを理解する。</p> <p>問題</p> <p>アのテープは、3 cm です。カのテープは、アの2ばいの長さです。カのテープの長さは、何 cm ですか。</p>	<p>○ 「倍」をかけ算で求める算数的活動</p> <p>※ テープ図を使った操作活動→テープ図での図的表現→～の□倍の式化の順に交流活動を行う。</p>
13	習得	<p>○ 乗数と積の関係、乗法の交換法則について理解する。</p> <p>問題</p> <p>九九をつくったときにつかたきまりをまとめよう。</p>	<p>○ 各段の九九の構成をする時に用いた性質を乗法の性質としてとらえ直す算数的活動</p> <p>※ アレイ図を活用し、同数累加、1つ前の積に被乗数をたす考え、交換法則、分配法則を理解する。</p>
14	スパイラル組本時	<p>○ 乗法について成り立つ性質を用いて、2位数と1位数のかけ算の仕方について考える素地的経験をする。</p> <p>問題</p> <p>九九のきまりをつかって、九九のひょうをひろげよう。</p>	<p>○ 第3学年「九九をみなおそう」に「スパイラル」する算数的活動</p> <p>※ アレイ図を囲む活動と立式を結びつけて考えるようにする。</p>
15 16	習得	<p>○ 乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深める。</p> <p>問題</p> <p>お母さんがゆうびんきょくで切手を買ってきました。切手はぜんぶで何まいありますか。</p> <p>問題</p> <p>チョコレートをいくつか食べました。はこの中のチョコレートは、ぜんぶでどこありますか。</p>	<p>○ 九九を用いて、いろいろな方法で問題を解決する算数的活動</p> <p>※ アレイ図を活用し、何のいくつ分としているのか考える。</p> <p>※ 図をもとにかけ算を使って、いろいろな求め方を工夫する。</p>

時	型	学習内容と問題	主な算数的活動と手立て
17 3 組 本 時	活用	<p>○ 乗法九九を総合的に活用して、問題を解決することを通して、九九の理解を深める。</p> <p>— 問題 —</p> <p>2年○組26人みんなでバスを使って、もーもーランドになかよし遠足に行きます。1人ぼっちですわる人がいないようにするためには、どのようなすわりかたをすればよいでしょうか。</p>	<p>○ 既習のかけ算を使って、日常生活及び発展的な問題場面へ活用する算数的活動</p> <p>※ 半具体物を活用しながら、考えをつくる。</p>
18 19	習熟	<p>○ 学習内容の理解を確認し、確実に身につけるようにする。</p>	<p>○ 学習内容を正しく用いて適用問題を自力解決できているか確かめる算数的活動</p>

第 14 時 「スパイラル」学 習

5 本時目標

- 乗法について成り立つ性質を用いて、2位数と1位数のかけ算の仕方について考える素地的経験をすることができる。(数学的な考え方)

6 本時指導における「スパイラル」学習の考え方

	第2学年	第3学年
目 標	○ 乗法について成り立つ性質を用いて、2位数と1位数のかけ算の仕方について考える素地的経験をすることができる。	○ 被乗数が10を超える場合でも、乗法のきまりや性質を用いて答えが求められることを理解する。
学 習 問 題	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: auto;"> <p>2 いろいろなかけ算のきまりをつかって、九九のひょうを広げてみましょう。</p> </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>? どのようにすれば、12×4の答えをもとめることができるか考えよう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>1 1まい23円の色画用紙を3まい買います。代金はいくらですか。</p> </div> </div>

前時までに児童は、既習の乗法について成り立つ性質（①かけられる数をかける数と同数ずつたす。②1つ前の九九の答えにかけられる数をたす。③かけられる数とかける数を入れかえて計算しても答えは同じ。④既習の九九を使いかけられる数を分けて計算する。）を活用して、1の段から9の段までの九九の構成を自らの考えをもとに表現することができるようになっている。

本時は、第3学年「九九を見なおそう」のかけ算のきまりの学習へとスパイラルする内容で、乗法について成り立つ性質を用いて2位数と3位数のかけ算の仕方について考える素地的経験をすることをねらいとしている。また、第2学年と第3学年との違いを次のように考える。

第2学年では、1の段から9の段までの九九表を見てきまりを見つけ、そのきまりを使って2位数×1位数の計算ができること。さらには、九九の表を広げることができることを素地的経験として実感できるような算数的活動を工夫する。

第3学年では、かけ算のきまりを使って 12×3 や 15×6 の答えをいろいろな方法で確実に出せるようにし、2位数×1位数、3位数×1位数の筆算の計算の学習へとつなぐような算数的活動を工夫するようになっている。

「つかむ」過程では、既習の「九九のきまり」をもとにふりかえり見通しをもたせる。その後、九九のきまり①被乗数を乗数と同じ数ずつたして積を求める ②乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増える ③交換法則を用い既習の九九で積を求める ④被乗数を2つのまとまりに分けて既習の九九で積を求める の4つのいずれかを活用しながら問題解決に取り組ませたい。

「つくり出す」過程では、どのきまりを使うかを明らかにしながら、アレイ図を操作して自分の考えを表現させる。その際、 $12 \times \square$ では、乗数が1増えるごとに答えは12ずつ増えていくことを実感させたい。また、交換法則や分配法則が成り立つことにも気付かせたい。

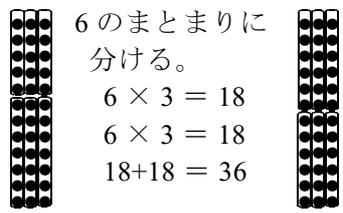
「響き合う」過程では、それぞれの問題解決の仕方を確認していき、考えの共通点や違いを交流する活動を通して、これまで学習してきたきまりを使えば「2位数×1位数の計算もできること」、「九九の表は広げていけること」を共有させたい。

「ふり返る」過程では、 12×3 のかけ算の仕方について分かったことをふり返り、かけられる数が9より大きくなった時も、これまで学習してきた九九のきまりを使えば、自力で解決していけることを実感させ、いつでも使える便利な考えとして第3学年につなげていけるようにしたい。

7 準備

- 教師：既習内容の掲示物、アレイ図、学習プリント、九九表
- 児童：前時までの学習プリント

8 展開

過程	学習活動と内容	○主な算数的活動 ※主な手立て
つ か む	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてをつかむ。</p> <p>問題 九九のきまりをつかって、九九のひょうをひろげよう。</p> <p>めあて これまでの学しゅうでつかった九九のきまりをつかって、12×3のけいさんのしかたを考えよう。</p>	<p>○ 第3学年「九九をみなおそう」に「スパイラル」する算数的活動</p>
／ つ	<p>2 自分の考えをつくる。</p> <p>○ 九九のきまりから自己選択して解決していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんどんたすコース(被乗数を同じ数ずつたす) ・ 前の答えにたすコース(前の九九の答えにたす) ・ こうかんチェンジコース(交換法則) ・ 分けるコース(分配法則) <p>【予想される考え】</p>	<p>○ 自分の考えをつくるための算数的活動</p> <p>※ 「九九のきまり」の4コースを掲示して、九九の構成の仕方を想起させる。</p>
く り	<p>① どんどんたすコース 12の3つ分だから、 $12+12+12 = 36$</p> 	<p>② 前の答えにたすコース 12×2の答えに12をたして $24+12 = 36$</p> 
出 す	<p>③ 交換チェンジコース 12×3は3×12の答えと同じだから</p> <p>$3 \times 9 = 27$ $27+3 = 30$ $30+3 = 33$ $33+3 = 36$</p> 	<p>④ 分けるコース 5のまとまりと7のまとまりに分ける。 $5 \times 3 = 15$ $7 \times 3 = 21$ $15+21 = 36$</p> <p>6のまとまりに分ける。 $6 \times 3 = 18$ $6 \times 3 = 18$ $18+18 = 36$</p> 
／ 響 き 合 う	<p>3 考えを交流し、よりよい考えへと高める。</p> <p>(1) ①～④の解決方法について順に発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 12×3の計算もこれまで学習してきた考えを使って解決していったらよい。 <p>(2) ①～④の解決方法の違いやよさに気付く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 九九の表は広げていける。 <p>(3) 九九の表のあいているところを書き加えていく。</p>	<p>○ よりよい考えへと高め合う算数的活動</p> <p>※ アレイ図を囲む活動と立式を結びつけて考えさせる。</p> <p>※ 九九の表は、横の列から書かせる。横の列が終わったら、縦の列を書かせる。</p>
／ ふ り 返 る	<p>4 学習感想を書く。</p> <p>(1) 次の観点で学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本時学習で分かったことや気付いたこと ・ これからも使えそうな便利な考え ・ 第3学年「九九をみなおそう」の学習でがんばりたいこと。 <p>(2) 学習感想を交流する。</p>	<p>○ 次学年へつなぐための算数的活動</p> <p>※ 本時学習で分かったことやこれからがんばりたいこと等を学習感想として書かせる。</p> <p>※ 学習のまとめとして一般化するのではなく、これから「いつでも使える」考えとして、次の学年へとつなぐことができるようにする。</p>

第 4 時 「習 得 型」学 習

5 本時目標

- 乗法について成り立つ性質を用いて、7の段の九九の構成の仕方を考える。(数学的な考え方)

6 本時指導の考え方

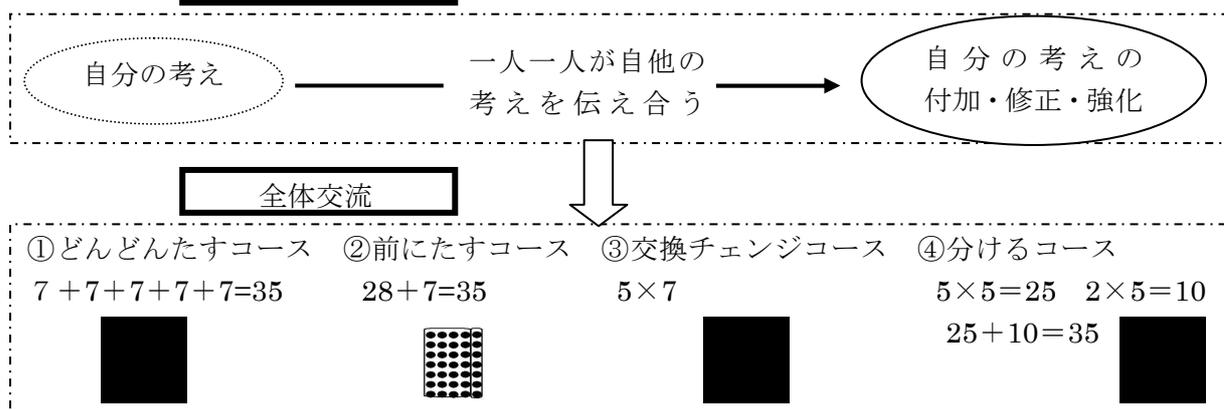
前時までに児童は、既習の乗法について成り立つ性質(①かけられる数をかける数と同じ数ずつたす。②1つ前の九九の答えにかけられる数をたす。③かけられる数とかける数を入れかえて計算しても答えは同じ。④かけられる数を分けて既習の九九をつかう。)を活用して、2の段から6の段までの九九の構成の仕方について、自らの考えをもつことができるようになってきている。

本時は、既習を活用しながら、アレイ図を操作し、図、言葉、式を用いて7の段の九九をつくり、ともに考えを伝え合うことを主なねらいとしている。

「つかむ」過程では、具体物を用いて問題を提示する。問題を読み「分かっていること」と「求めること」を全体で確かめることで、意味がとらえられるようにする。1列に7個ずつ並んでいることから本時の「1つ分の数」は7であることや、列(「いくつ分」)が増えると全体の数が7ずつ増えていくことを視覚的にとらえることができるようにする。

「つくり出す」過程では、既習の「九九のきまり」を、掲示物をもとにふり振り返り見直しをもたせる。ここでは、どんだんたすコース(①被乗数を乗数と同じ数ずつたして積を求める。)前にたすコース(②乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増える。)交換チェンジコース(③交換法則を用い既習の九九で積を求める。)分けるコース(④被乗数を2つに分けて既習の九九で積を求める。)の4つの「きまり」のいずれかを活用しながら問題解決に取り組むことができるようにしたい。その見直しをもとに、4つのきまりのうちどの考え方を使ったのかを明らかにしながら、7の段の九九を構成できるようにする算数的活動を仕組む。その際、アレイ図を操作する活動を取り入れる。この活動を通して、乗数が1増えるごとに答えは7(被乗数分)ずつ増えることを実感させたい。また、うまく自力解決ができないときは、小集団による交流をもつようにする。

「響き合う」過程では、以下のような交流活動を仕組み、児童が主体的に新しい数理を獲得できるようにする。



「まとめる」過程では、7の段の構成の仕方について分かったことをふり振り返りまとめる。また、「 7×6 から 7×9 までの九九はどんな考えを使ったらつくれそうかな」と投げかけ、かけ算の「きまり」を使えば未習のかけ算も自力で構成していけそうだというよさにふれさせ、本時の学習内容をさらに発展させる意欲を引き出したい。

7 準備

教師：既習内容の掲示物、お菓子、アレイ図、学習プリント

児童：前時までの学習プリント、アレイ図

8 展開

過程	学習活動と内容	○主な算数的活動 ※主な手立て
つ か む	<p>1 本時の問題について話し合い、めあてをつかむ。</p> <p>問題</p> <p>1れつに7こずつならんだおかしが、□れつあります。おかしはぜんぶで何こありますか。</p> <p>めあて</p> <p>7のだんの九九をくふうしてつくりよう。</p>	<p>○ 課題を考えるための算数的活動</p> <p>※ 題意をつかむことができるよう、具体物を提示する。</p>
つ く り 出 す	<p>2 見通しを立て、自分の考えをつくる。</p> <p>(1) 見通しを立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ どんどんたすコース (被乗数を乗数と同じ数ずつたす) ・ 前にたすコース (1つ前の九九の答えに7をたす) ・ 交換チェンジコース (交換法則) ・ 分けるコース (分配法則) <p>(2) 自分の考えをつくる。(7×1から7×5まで)</p> <p>【予想される考え】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p>① どんどんたすコース</p> $7 \times 5 = 35$ $(7 + 7 + 7 + 7 + 7 = 35)$ </div> <div style="width: 45%; background-color: black; height: 60px;"></div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-between; margin-top: 10px;"> <div style="width: 45%;"> <p>② 交換チェンジコース</p> 7×5 は 5×7 の答えと同じだから、$7 \times 5 = 35$ </div> <div style="width: 45%; background-color: black; height: 60px;"></div> </div>	

第 17 時 「活 用 型」学 習

5 本時目標

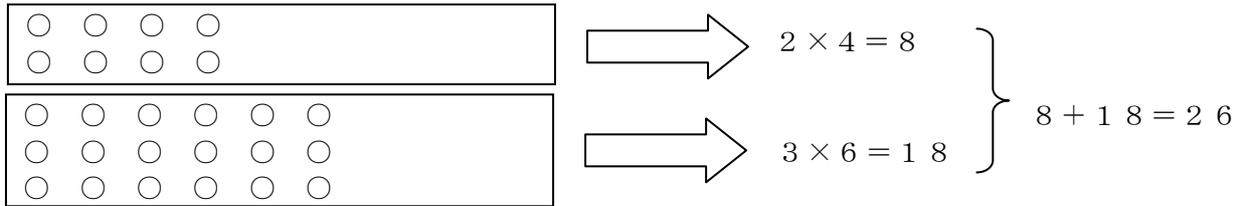
- 3人席と2人席を使った座席の座り方を考えることを通して、既習の九九の構成の仕方の理解を深めることができる。(数学的な考え方)

6 本時指導の考え方

(1) 問題解決に必要な数理と問題設定

- ・一人にならないように
座席図を使ってあらわすこと

- ・かけ算の式であらわすこと



本時の学習問題は、次のようなものである。

2年3くみ26人みんなで、バスをつかって、もーもーランドになかよし遠足に行きます。1人ぼっちですわる人がいないようにするためには、どのようなすわりかたをすればよいでしょうか。

かけ算の「活用型」学習として位置付ける学習である。児童が、これまでに学習してきたかけ算の考えを日常生活の中にも使えるように、この問題を開発した。他の学習や生活場面でも、「1人にならないように・・・」や「○人グループで・・・」など、数に制約がある中でのグルーピングも体験してきており、この問題の意味もつかみやすいと考えた。

(2) 問題解決をさせるための具体的な支援

「つかむ」過程では、クラス全員での遠足を想定し、バスの中での座席の座り方を考える学習であることを知らせる。その際、座席図を印刷したプリントを配布し、児童の問題解決に向けての意欲を高める。

「つくり出す」過程では、見通しをもたせるために、順番に座らせると1人で座る児童が出てしまい、題意に合わないことに気付かせる。題意に合うためには、2人席・3人席というように、2人組・3人組で考えていくといいことを確認する。その後、自分の考えをつくる際には、座席のプリントを用いて考えることができるような算数的活動を仕組む。また、自力解決への支援として、半具体物を操作しながら考えることができるような支援を用意する。

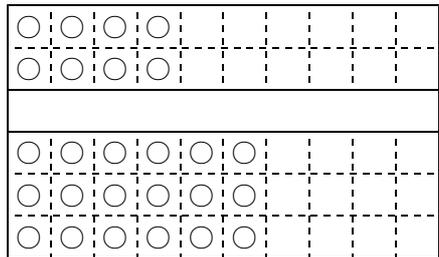
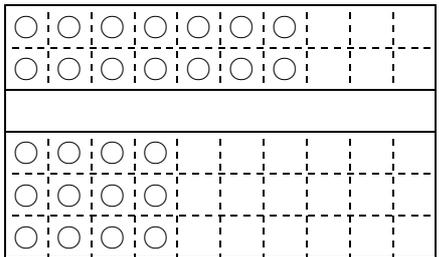
「響き合う」過程では、問題の解決の仕方を確認していき、それぞれの考えのよさに気付かせ、バスの座席の座り方という日常場面にも、かけ算の考えが使えることを実感できるようにする。

「ふり返る」過程では、本単元の学習をふり返りながら、これからも日常生活において様々な場面で使っていこうとする意欲へとつないでいきたい。

7 準備

- 教師：学習プリント（座席図）、既習内容の掲示物、自力解決のための半具体物、
- 児童：前時までの学習プリント

8 展開

過程	学習活動と内容	主な算数的活動 ※主な手立て
つ か む	<p>1 本時の問題について話し合いめあてをつかむ。</p> <p>問 題</p> <p>2年3くみ26人みんなで、バスを使って、もーもーランドになかよし遠足に行きます。1人ぼっちですわる人がいないようにするためには、どのようなすわりかたをすればよいでしょうか。</p>	<p>○ 日常生活及び発展的な問題場面へ活用する算数的活動（逆思考を伴う問題）</p>
／ つ く	<p>2 解決の見通しを立て、めあてをつくる。</p> <p>【見通し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26になる九九がないから、1回のかけ算で見つからない。 ・分けるコースを使うとよい。 <p>めあて</p> <p>かけ算を使って、26人がなかよくすわるすわりかたを考えよう。</p>	<p>○ 問題構造をつかみ、自力解決の見通しを考えるための算数的活動</p> <p>※ バスの座席図を提示して、3人席と2人席を使って考えていくことを知らせる。また、座り方の事例を示す。</p>
く り 出 す	<p>3 自分の考えをつくる。</p> <p>【予想される考え】</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;"> $2 \times 4 = 8$ $3 \times 6 = 18$ $8 + 18 = 26$ </p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">  <p style="text-align: center;"> $2 \times 7 = 14$ $3 \times 4 = 12$ $14 + 12 = 26$ </p> </div> </div>	<p>○ 既習を使いながら、自分の考えをつくるための算数的活動</p> <p>※ 半具体物を操作しながら、自分の考えをつくることができるようにする。</p>
／ 響 き 合 う	<p>3 考えを交流する。</p> <div style="display: flex; align-items: center;"> <div style="margin-right: 10px;"> <p>① $2 \times 13 \dots \dots 2$の段を使った考え方</p> <p>② 2×1と$3 \times 8 \dots$</p> <p>③ 2×4と$3 \times 6 \dots$</p> <p>④ 2×7と$3 \times 4 \dots$</p> <p>⑤ 2×10と$3 \times 2 \dots$</p> </div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div> <p>2の段と3の段を使った考え方</p> </div> </div>	<p>○ 多様な考えのよさに気付くための算数的活動</p> <p>※ 共通点を話し合う中で、どの考えもかけ算の式で表せること、答えが26になるかけ算の式は多様にあることに気付くようにする。</p>
／ ふ り 返 る	<p>4 学習感想を書く。</p> <p>(1) 次の観点で学習感想を書く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時学習で分かったことや気付いたこと ・生活の中で使えそうなこと ・かけ算の学習をふり返って <p>(2) 学習感想を交流する。</p>	<p>○ 活用した数理のよさを日常生活へとつなぐための算数的活動</p> <p>※ かけ算は、日常生活のいろいろな場面で使える考えとして、これからも使っていこうとする意欲へとつなぐことができるようにする。</p>